

モライサン 茂来山の植物採集

池田 登志男

第108回例会は昭和60年9月7・8日、南佐久郡佐久町の茂来山（1717m）で日本植物学会中部支部と合同で採集会が行われた。参加者は当日参加も含めて、井波一雄、望月精一、平林陸男、小口好久、和田清、大塚孝一、卯之原慶助、古谷義人、花里弘、草間博、小林春雄、森泉恒雄、中山湧、酒巻裕三、中沢製装延、馬場多久男、堀米富平、幹事の池田登志男の18名、そのほかに佐久教育会等から10名の計28名であった。

第1日目。宿泊地の臼石荘近くの大野沢での採集会を予定していたが1時過ぎから激しい雨となった。採集会を半ば諦めて宿でお茶を飲んでいると出発予定の2時には雨もやんで空が明るくなったので、集まった14名で予定通り採集会を5時ごろまで行なった。ヤマハギ・ツクシハギ・ミツバツツジ・トウゴクミツバツツジ・ハシドイ・コアジサイ・オニイタヤ・ウラゲエンコウカエデ・ナツツバキなどが見られた。

夕方、宿に帰ってからは、早速標本整理をする人、風呂に入ってくつろぐ人などで、しばらくして夕食。ビールで懇親会。自己紹介に始まり、明日の茂来山で見られるサンヨウブシ（白花）・チチブシロカネソウ・ヤマナシウマノミツバ・ナツツバキなども話題になる。

第2日目。当日参加者も加わって数台の車に分乗して8時出発。登山口に車をおいて頂上を目指す。一人で登れば2時間足らずの道のりであるが、きょうは3時間の予定で歩く。

登りはじめて間もなく、葉がすでに、ほとんど枯れているヤマブキソウが見られた。そのほか、カジカエデ・ヒメトラノオ・ケゴンアカバナ・ヒナスミレ・エイザンスミレ・クリンソウ・ミヤマアキノノゲシなど。

1200m付近では、スグリ・レンゲシウマなどが見られた。スグリは佐久では各地に分布するが、いづれも個体数は少く、茂来山でも、ここと、もう1か所で知られているだけである。レンゲシウマは花期が過ぎていたが、この辺から頂上近くの1650m近くまで所々で群生している。1300m付近では、ヤマタイミンガサ・チクセツニンジン・モミジガサ・ウスゲタマブキ・ヤマクワガタ・アマニュウ・ヒカゲミツバ・クロツバラ・アオハダ・オヒョウ・カツラ・サワグルミ・トチノキ・ミヤマメシダ・ミヤマ

イラクサ・オオバアサガラ・クサソテツ・ナツツバキ・ジャコウソウなどが見られた。

1400mを過ぎると急坂になり、今までほぼ頂上に向かっていた登山道が斜面を巻いて登るようになる。この辺で大塚孝一先生にカラクサシダ・ナガオノキシノブなども教えてもらう。今まで茂来山で確認されていなかった種である。また、この辺からサンヨウブシがたくさん見られ、採集したりカメラに収めたりする。個体数は、かなり多いが大部分は白花で、紫色の花は探してもなかなか見られないくらい少ない。

チチブシロカネソウは、もう枯れていたが注意して見ていくと、所々で見られた。その他、目についた植物は、ヒメゴヨウイチゴ・クロカンバ・チドリノキ・コメツガ・オクモミジハグマ・シラネワラビ・サワラ・ハリブキ・ハリギリ・ミズナラ・ツバメオモト・タガネソウ・マイヅルソウ・ヤグルマソウ・ムシカリ・サラサドウダン・ウワミズザクラ・シウリザクラなど。

頂上に続く尾根に出るあたりは1650mくらいでブナノキ・ダケカンバ・ミズナラ・コメツガ・ハリギリなどの大木の林の中や周辺にハナヒリノキ・トウゴクミツバツツジ・サビバナナカマド・ヤマツツジ・コミネカエデ・ヤマナシウマノミツバ・ヒメスミレサイシン・コキンバイ・イチヤクソウ・クルマバツクバネソウ・ナガバノコウヤボウキ・シモツケ・マツムシソウ・ヤマトリカブト・イワカガミ・ミヤマモジズリ・アカマツなどが見られた。

大部分の人は11時半ごろ頂上に着き昼食にする。中には途中で熱心に採集や調査をしていて12時ごろ着いた人たちもいた。12時45分、頂上を後にして登った道を下り、2時半ごろ佐久東小学校で解散したが、その後、大半の人が佐久東小の岩石標本室を見学し、お茶を頂いて3時過ぎ、それぞれ帰途に着いた。

〔植物ニュース〕98. ヤエザキバイカオウレン

Coptis quinquefolia Miq. f. *plena* Okuhara

バイカオウレンは普通5枚の花弁状がく片をもっているが、昨年5月木曽小川入国有林で元上松宮林署員大橋登氏の発見したのは15枚のがく片をもっている。新品種とみられる。（奥原弘人）